◆　第 72 期「自然科学書フェア 2023」視察報告　◆

第 72 期の自然科学書フェアは、昨年の札幌に引き続き同じ北海道内ですが、商圏の異なる函館市、函館蔦屋書店様にて 2023 年 3 月 1 日～5 月 31 日の過去最長 3 か月間にわたる開催となりました。

フェア終盤の 5 月 11 日、村上副理事長、吉野販売・出展委員長、鈴木同副委員長に私石川同委員を加えた 4 名で視察訪問し、今回フェアを担当していただいた福島様はじめ、専門書ご担当の白井様、荒川様と面会しました。

フェア会場は、 1 階アート・哲学コーナーの棚 10 本を空けて使用し、51 社 1,189 点 2,396 冊の本が並びました。高い棚に囲まれているため、照明が暗めではありましたが、ポスター不可のところ特別許可をいただき、アイキャッチとして目立っていました。

売上は 3 月で約 40 万円と、元棚も含んではいますが、「なかなかの売れ行き」（福島様談）で、時期的に図書館の残予算で高額本が売れた例もありました。4 月に入ってやや落ち着き約 30 万円。ゴールデンウィーク中の 5 月第 1 週が 9 万円弱と推移。最終的には 328 冊、941,584 円（本体価格）で、「かなり優秀な数字」との福島様の評価でした。

フェアをご覧になっている客層は、20 代から中高年、男女色々で、「たぶん公立はこだて未来大学だろう」という学生も見受けられ、いつも来店されるお客様と明らかに違っていたそうです。また今回は函館新聞に 3 回の連合広告と、函館のローカルフリーマガジン「peeps」での広告、福島さんの人脈で北海道新聞夕刊にフェア記事掲載があり、広告の切り抜きを持ってこられる目的買いのお客様も目立っていたそうです。

全体の来客数については、札幌・室蘭・旭川の車のナンバーが目立つくらいで、全国からの車でいっぱいになっていたコロナ前には回復していません。

福島様の感想として、フェアでは「マンガで溶接」、「仮病の見分け方」とか意外な本が売れたので、 2 階の専門書売場と違う 1 階に置いてみる面白さを感じたそうです。

また、出版社の売れ筋が必ずしも売れる訳ではないので、お店の客層に合わせた選書が必要とのことでした。

（販売・出展委員会　フェア小委員会　幹事：石川省二）

後列左より、村上副理事長、吉野委員長、蔦屋書店 福島氏
前列左より、鈴木副委員長、蔦屋書店 白井氏、石川幹事